

さいたま市長定例記者会見

令和6年4月11日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行        それでは、定刻になりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。

                  それでは、記者クラブ幹事社、東京新聞さん、進行をよろしくお願ひします。

○ 東京新聞        4月の幹事社を務めます東京新聞と申します。よろしくお願ひします。

                  それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長から説明をお願ひします。

○ 市 長        皆さん、こんにちは。

                  台湾東部で4月3日に発生した地震については、多くの被害が発生し、大変心を痛めています。被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧復興を心よりお祈り申し上げます。

                  さいたま市では、現在救援金箱を10区役所全てに設置しています。ぜひ皆様のご支援をお願ひします。

                  さて、4月は入学や就職など始まりの季節でもあります。本市においても、新たに447名の新入職員を迎えました。1日の入庁式では、代表の職員から「常に問題意識を持ち、市民のため、またシンカを続けるさいたま市のこれからの発展に貢献するために全力で取り組む」と初々しくも力強い言葉があり、大変頼もしく思った次第です。

                  令和6年度が始まりましたが、新入職員をはじめとする市役所の職員と一丸となって様々なチャレンジを続け、選ばれる都市、そして市民が幸せを実感できる都市であり続けるためにシンカをし続けたいと思っています。

                  それでは、議題に入ります。

**市長発表：議題1「大宮盆栽村開村100周年記念ロゴマークの発表と魅力あふれるイベントで、大宮盆栽村を盛り上げます」**

初めに、議題1「大宮盆栽村開村100周年記念ロゴマークの発表と魅

力あふれるイベントで、大宮盆栽村を盛り上げます」について説明します。

まず、記念ロゴマークの話の前に大宮盆栽村の歴史について少し触れたいと思います。大宮盆栽村は、大正14年、1925年に誕生し、盆栽園が約30園まで増えた興隆の時代です。そして、戦争中の困難な時代を経て、戦後は盆栽文化が世界に広がっていく原動力となったエリアです。

そして、2度の世界盆栽大会が旧大宮市、さいたま市で開催されるなど、今や日本だけでなく世界から多くの愛好家が訪れる盆栽の聖地となりました。

その大宮盆栽村が、令和7年、2025年に開村100周年を迎えます。この100年の間、盆栽文化を育てつないできた盆栽園をはじめとする関係者の皆様の努力に敬意を表したいと思います。

本市としても、この100周年を関係者の皆様と共に祝い、そして大宮盆栽村が次の100年につながっていくよう、関係者の皆様としっかりと連携し、そして支援をしていきたいと考えています。

本日は、この100周年の機運を醸成するために大宮盆栽村の若手盆栽師と市が協働して作成した記念ロゴマークを皆さんにお知らせしたいと思います。

タイプは全部で6種類あり、これがメインのロゴになります。メインロゴのコンセプトですが、100周年が分かりやすくなるように、また認知できるように数字と文字を配置しまして、この数字の中心に大宮盆栽美術館のまさにシンボリックな盆栽である五葉松の「日暮し」を配置しています。また、文字のかすれた部分は盆栽の見どころでもあるいわゆるシャリです。ジン・シャリがここに表現されています。

他にも、今お見せしたメインロゴのほかにこういったロゴもあり、展開に合わせて、また使用の用途や雰囲気に合わせてどれでも使用できます。

営利目的で使用する場合は事前申請が必要になりますが、どなたでも要綱の範囲内で使用できます。

使用期間は、100周年が終了する令和8年3月31日までです。

100周年ロゴは、今後予定している大宮盆栽村開村100周年に向けた広報やイベント等で使用していきます。

また、本日から市ホームページに大宮盆栽村開村100周年のホームペ

ージを開設します。大宮盆栽村開村100周年に向けたイベントやお知らせなどの情報を発信します。

100周年ロゴの要綱、マニュアル、申請書、ロゴデータはこちらのホームページからダウンロードできるようになっていますので、ぜひご活用ください。

大宮盆栽村100周年を盛り上げるため、ぜひ多くの方にご利用いただければと思っていますので、よろしくお願いします。

次に、第41回大盆栽まつりについて、説明します。本市が世界に誇る伝統産業である盆栽文化を広く伝えるため、地元の盆栽園等が中心となって取り組んでいるイベントです。

今年は、5月3日から5日にかけて、大宮盆栽村一帯を会場として開催します。市民盆栽展、盆栽、山野草等の即売会、盆栽相談所が開設され、国内外から多くの愛好家が訪れるまさに盆栽一色の3日間となります。

なお、5月3日11時から大宮盆栽美術館において、開会セレモニー及び市民盆栽展の表彰式がありますので、併せてお知らせします。

次に、大盆栽まつりの関連イベントとして開催する大宮盆栽村おもてなしイベントについて説明します。

開催日時は、大盆栽まつりと同様に5月3日から5日までです。会場は、盆栽四季の家及び駐車場です。

イベント内容は、盆栽四季の家及び駐車場において、休憩スペース、飲食ブース、キッチンカーの設置、ワークショップを実施するほか、ステージプログラムを実施します。また、周遊イベントとしてクイズラリーも実施します。

今年度の新たな取組として、令和7年の大宮盆栽村開村100周年に向けて、土呂駅東口のロータリーでイルミネーションを実施する予定です。

また、大宮駅改札口外のみめの木の近くに本イベントを含む大宮盆栽ウィークのPRボードを設置して、広くPRすることを予定しています。

大盆栽まつりで大宮盆栽村を訪れる皆様にイベントをより一層楽しんでもらいたいと考えています。

次に、大宮駅東口周辺で開催するおおみや盆栽春まつりについて説明します。今回も前回初めて試みた前夜祭を実施する予定です。JR大宮駅構

内という非常にPR効果の高い場所を会場として、ご来賓やご観覧の皆様の前で盆栽師によるライブパフォーマンスを予定しています。

大宮盆栽まつり、本祭の3日は、大宮駅東口銀座通りで春まつりを開催して、歩行者天国にした上で、飲食店の出店、ワークショップなどを実施する予定です。

また、氷川神社においても、3日から5日まで、境内の舞殿において、各盆栽園のすばらしい盆栽を展示します。

大宮の魅力を堪能できるイベントとなっていますので、ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、ぜひお越しいただきたいと思います。

また、大宮盆栽美術館では、季節感あふれる盆栽のほか、盆器や水石なども展示しています。館内ではミュージアムサポーターによる鑑賞ガイドも実施します。

さらに、企画展示室では、盆栽の歴史をパネル展示する展覧会として「盆栽クロニクルー年代記ー」を実施する予定です。大宮盆栽美術館選りすぐりの季節に合わせた作品・資料も展示しますので、ぜひ大宮盆栽美術館にもご来場ください。

令和7年の大宮盆栽村開村100周年は、本市の誇る盆栽文化において大きな節目になると考えています。今後も引き続き記念事業を企画するほか、大宮盆栽の継承と発展に向けた事業を全庁を挙げて取り組んでいきます。

## 市長発表：議題2『「さいたまシティサッカー夢プロジェクト」&「スマイルプロジェクト2024」参加者を募集します』

続いて、議題2「「さいたまシティサッカー夢プロジェクト」&「スマイルプロジェクト2024」参加者を募集します」について説明します。

まず、女子サッカーの現状について説明します。こちらは、埼玉県サッカー協会が取りまとめた数字をグラフにしたものです。ご覧のとおり、協会に登録している女子選手は、小学生から中学生にかけて減少し、高校生になると再び増加している傾向があります。

小学生のときは男子と一緒にチームでプレーしている子も多くいますが、

中学生になると、男女の体格差が大きくなり、男子とプレーすることが難しくなるとともに、部活動に女子サッカー部がないなど、プレー環境も限られていることから、サッカーから離れてしまう子が多い傾向があります。

このため、小学生から中学生になる間に切れ目なくサッカーができる環境を提供することが必要だと考えています。

また、高校、大学、一般と将来にわたってサッカーを続けるために、サッカーを楽しむことに加えて、女性アスリートとして学ぶ機会を提供することが必要だと考えています。

そこで、本市では令和元年5月に、日本サッカー協会と協定を締結して、女子サッカーの課題についても共有しながら取り組んでいるところです。

そして、女子だけの練習環境を整えるために、市サッカー協会や浦和レッズ、大宮アルディージャ等と連携しながら、小学生向けの夢プロジェクトと中学生向けのスマイルプロジェクトを実施しています。

2つの取組を同日、同会場で実施することで、小学生から中学生へ切れ目なくサッカーができる環境、スポーツをする機会を創出し提供しています。

行政が中心となってこのような女子サッカーに関する取組を、年間を通じて継続的に、また複数年にわたって行っているのは、少なくとも県内では唯一の取組ではないかと考えています。

まず、さいたまシティサッカー夢プロジェクトの概要を説明します。

対象は市内に在住、在学もしくは市サッカー協会加盟の少年団やクラブチームに所属する小学生年代の女子です。

月1回程度、市内で練習会を開催します。参加費は年間1,000円。これには保険料を含んでいます。

指導には、市サッカー協会のコーチに協力をいただいています。

申込みは、チームに所属しているお子様は、所属チームを通じて、チームに所属していないお子様は、市のスポーツ振興課に連絡していただきたいと思います。

次に、スマイルプロジェクト2024の概要について説明します。

対象は中学生年代の女子です。学校で他の部活に入っている、サッカーの経験がなくても参加できます。

月に1回程度、市内で練習会を開催しています。基本的には夢プロジェクトと同日開催しています。(スマイルプロジェクトでは、)練習会のほか、交流試合やセミナー等も実施予定です。

参加費は年間1,000円。これには保険料も含まれています。

指導には、浦和レッズハートフルクラブや大宮アルディージャ普及部のコーチに指導していただいています。

申込みは、スマイルプロジェクトのホームページにある申込フォームから、もしくはスマイルプロジェクト事務局に連絡いただければ参加できます。

こちらがスマイルプロジェクトの様子を紹介している写真です。練習会のほか、交流試合やセミナーを実施しています。

スマイルプロジェクトにおいては、コンディショニングや栄養学などのセミナーを実施し、スポーツを学ぶ機会も提供しています。2023年度は、けが予防のための知識とストレッチの仕方に関するセミナーや中学生年代における食事と栄養に関するセミナーを実施しました。

このほか、夏休み期間中に高校の部活動体験なども実施し、サッカーを継続することにつながる取組も行っています。

最後に、練習会の年間実施スケジュールについてお伝えします。夢プロジェクト、スマイルプロジェクトともに、第1回練習会は4月20日(土)14時からです。市内の八王子スポーツ施設で実施します。これを皮切りに1年間定期的に練習会を実施します。

この練習会のほか、5月に「武蔵コーポレーション Presents SAITAMA GIRLS MATCH 2024」を実施します。これには、夢プロジェクト、スマイルプロジェクトからそれぞれチームを組んで参加する予定です。

また、9月と3月には、スマイルプロジェクト主催の交流試合の実施も予定しています。NACK5スタジアムなどの天然芝のグラウンドで試合する機会を提供する予定です。サッカーをやりたい、サッカーを続けたいという女子の参加を心からお待ち申し上げます。

私からの説明は以上です。

○ 東京新聞

市長からの説明についてマイクを使用して質問をお願いします。

## 議題に関する質問

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。  
大宮盆栽の100周年のロゴですけれども、市長の印象をお願いします。
- 市長 数字と文字とを組み合わせ、100年という歴史の重みと、そして私たちの思いとしては、次の100年につなげていくという思いもありますので、この100年という数字がしっかりと表現されています。大宮盆栽村100周年、これはさいたま市在住の書家の方に書いていただいた文字であります。大変力強い文字が書かれていることで、私自身は大変気に入っていますし、大宮盆栽のまさに日本のよき伝統と、そして未来志向というものを表現された文字になっていると思っています。
- 埼玉新聞 隣にあるポスターのロゴも、これもなかなかきれい、格好いいなと思ったのですが、これは継続しては使いづらかったということですか。
- 市長 ポスターのロゴは、通常からずっと使わせていただいているものです。今回のロゴは、100周年という特別な期間を表すロゴと考えていますので、これを使うのは、100周年が終わる令和8年3月31日までと限定させていただきます。
- この期間は100年をしっかりアピールして、次の未来へ向けて、次の100年に向けてという思いを込めてあえてこのロゴを作らせていただきました。その思いを発信しようということで、若手の盆栽師の皆さんと市と意見交換、勉強会などをやらせていただいて、そこで提案されたものです。ぜひ私たちとしては、この100年という重みと未来志向という、この2つの視点から大宮盆栽を支援していきたいと考えています。
- 埼玉新聞 100周年の前年のイベントなのですけれども、これは毎年やっている大盆栽ですので、それ以外は何か計画とかあるのでしょうか。
- 事務局 令和6年度については、周知イベントとして、5月の定例のイベントのほかに、秋口を予定していますが、周知のイベントをしたいと考えています。
- 埼玉新聞 前も聞いているのですが、100年に向けての方針ですか、これが2025年度にならないと出ないというふうに聞いているので、それはやっぱり早まらないということなんですか。

- 市長 令和7年度にはスタートからシンポジウム等を予定しながら、未来に向けたビジョンをその年に発表するという流れで考えています。それまでは十分に意見交換などをしながら、まさに盆栽文化の、また大宮盆栽の未来の夢、あるいはビジョンを盛り込んだものにしていきたいと考えています。
- 埼玉新聞 今おっしゃったシンポジウムというのはいつ頃を検討されているのでしょうか。
- 事務局 令和7年の4月を予定しています。
- 埼玉新聞 令和7年4月はキックオフイベントを開催するということだったのですけれども、その同時でよろしいですか。
- 事務局 はい、そのとおりです。
- 読売新聞 読売新聞です。
- スマイルプロジェクトについて教えてください。さいたま市としてこのように女子サッカーに力を入れている理由などって何かあるのでしょうか。
- 市長 さいたま市がなぜ女子サッカーに力を入れているかということですが、さいたま市は埼玉サッカーの発祥の地として100年以上の歴史があり、JリーグとWEリーグ合わせて4つのプロチームを擁するなど、サッカー文化が根づいているまちでもあります。また、その特色を生かして、「サッカーのまち さいたま」として、サッカーを核としたスポーツのまちづくりを推進しています。その中で、この女子サッカーに目を向けると、中学生年代に競技人口が減少するという課題があり、小学生の間は男子と一緒にプレーができるということで、私もよく開会式など試合を見に行ったりもしますが、女子の選手が男子と混じって試合をしている光景を見ます。中学生年代になるとどうしても男女の体格差も出ることもあって、また部活動でも、女子サッカー部がある学校がさいたま市内でも2つしかないのです。せっかく小学校年代で広い裾野が、この中学年代でボトルネックになってしまっているところを解消したいということもありました。
- そして、令和元年5月にJFAと協定を結ばせていただいて、さいたま市はサッカーのまちづくりを進めているため、いろいろな協力をしていただくための協定を結ばせていただきました。その中で特に女子サッカーの底辺を広げることが大きな目的の一つでもありましたので、そういった項目も入れ、その中で継続的に女子サッカー選手の裾野を広げていくため、



特にボトルネックとなっている中学生年代をしっかりと広げていこう、そこでの選手人口の減少をできるだけさせないように取り組ませていただいています。女子選手が小学生のときにサッカーを始めて、ずっと夢を持ち続けられるように、私たちとしては応援したい、そういう思いでやらせていただいています。

- 読売新聞      そのさいたま市内の2つの中学校がどこかということと、あと今年度のイベントで例年行ってこなかった新たな取組とか、もしあれば教えてください。
- 市長          中学校は常盤中と原山中です。
- 事務局      今年の新たなイベントということで、特段目新しいことはありませんが、先ほど市長から申し上げたとおり、毎年、女性アスリートとして身につけていただきたい、そういう知識のセミナーも開催しています。毎年工夫をしながらやっていますので、新たなテーマで女子選手の皆さんに学んでいただくような形になっています。
- 市長          特に女子のアスリートの場合、中学校のときに体のいろいろな変化がありますので、そういった知識も含めて、コンディショニングだとか栄養学も含めて、単に技術を覚える、サッカーの楽しさを知ってもらうだけではなくて、子どもたちに理解を深めていただくこうとしていることが一つの大きな特徴だと思います。
- 時事通信      時事通信と申します。  
この女子サッカーの現状という資料のグラフですが、1,030、719、956と減っているんですけども、この統計の詳細というか、いつのデータなのかということと、何年にどういうふうにとったデータなのかというのをちょっと詳細をお伺いできればと思います。
- 市長          これは2023年3月末現在で女子選手として埼玉県サッカー協会に登録をしている人数です。
- 時事通信      協会に登録している女子選手の数。
- 市長          そうです。

**幹事社質問：**

**来年5月までの任期が残り1年余りとなる中で、新年度への抱負や特に力を入れたい政策・課題などがあればお聞かせください。**

○ **東京新聞**

なければ、幹事社質問に移ります。

それでは、幹事社として代表質問させていただきます。来年5月までの任期が残り1年余りとなる中で、新年度への抱負や特に力を入れたい政策、課題などあればお聞かせください。

○ **市長**

それでは、幹事社のご質問にお答えします。

令和6年度は、コロナ禍を乗り越え、新たな一步を踏み出し、さいたま市の新時代を切り拓いていく大変重要な年であると考えています。本市の人口がピークを迎えると予想されている2035年頃までを「シンカの10年」と私たちは申し上げますけれども、この間に選ばれる都市としてシンカし続けていかななくてはならないと考えています。そのために、選ばれる都市として、さいたま市の新時代にふさわしい都市へのシンカに向けて、4つの視点で全力で取り組んでいく1年にしたいと思います。

まず、1つ目は「新たなさいたま市の創造」、コロナ禍を乗り越えた新たなステージ、21世紀半ばを見据えたさいたま市の新時代に向けて新たなニーズを捉え、本市がこれまで育んできた魅力、市内にいろいろな資源がありますので、そういったものに一層磨きをかけて、さいたま市らしさを深化させていく。これは深めていくほうの深化であります。

2つ目は、「誰一人取り残さず、誰もが住みやすく持続可能な地域社会の実現」、これは、まさにSDGsの理念ですが、誰一人取り残さないという理念を基に、「子育て楽しいさいたま市」の実現、あるいは高齢者が生涯現役として暮らせる社会の実現、また誰もが自分らしく生きられる地域共生社会の実現などに向けた取組を推進していきたいと考えています。

そして、3つ目は、「真に災害に強いレジリエントシティの実現」、今年1月1日に能登半島で大きな地震がありました。またつい先日も台湾で地震が起きました。こういった災害、激甚化、頻発化する自然災害への備えとして、都市生活インフラの耐震化、また治水対策を進めることはもち

ろん、消防、そして救急体制の構築、また配慮を要する方の避難態勢の確保など、ハード面、ソフト面、両方一体となった防災減災対策に取り組みます。

そして、4点目は、「新たな時代に対応する市役所の創造」です。これは、多様化する市民ニーズや新しいライフスタイルに対応するために全庁横断的にデジタルトランスフォーメーションを推進していきます。また、多様化、複雑化する行政課題に柔軟に対応していくため、公民学共創を推進し、質の高い公共サービスの提供を目指していきたいと考えています。

また、この4つの視点に加えて、特に子ども・子育て関連施策、ゼロカーボンシティ実現に向けた取組、そしてDXの推進に資する取組に重点的に取り組んでいきたいと考えています。

本年度は、私にとって4年間の任期の総仕上げの年です。選ばれる都市であり続けるためには、現状に満足することなく「シンカ」をし続けることが必要不可欠です。さいたま市の新時代にふさわしい都市への「シンカ」を目指して、全身全霊で市政を前に進めていきたいと考えています。

以上です。

## 幹事社質問に関する質問

### ○ 東京新聞

ありがとうございました。

代表質問に関して質問のある方は質問してください。ちょっと私のほうから最初に質問させていただきます。

最後に市長の言葉で、総仕上げの年度ということでお話があったのですが、ちょっと気が早いかもしれないですけども、その総仕上げの先に次の任期への意欲というのもあるかと思うのですが、現時点でその意欲ということに対しての考え方、そして出る、出ないにかかわらず、その態度表明というのはいつぐらいを考えているのかというのもちょっと教えていただければと思います。

### ○ 市長

今任期の選挙で選ばれた、また許されている市長としての任期は来年の5月までとなっています。とにかく今私自身は、この4年間の任期を、市民の皆様とお約束をしたことをとにかく着実に、またひたむきにしっかりと前に進めていくことが第一であり、現時点ではまだその先のことについて

ては全く考えていません。ですので、その後については現時点ではまだ具体的にいつ頃ということは申し上げられませんが、まずはこの総仕上げの年、大変重要な年だと私自身も思っていますので、まずは日々全力で取り組んでいきたいと思っています。

○ 東京新聞

ありがとうございました。

あと、これは仮定で恐縮なんですけど、前回の市長選でも議論になったと思うんですけども、もし5期目を目指すというのであれば、多選の是非というのは間違いなく議論になると思うのですが、現時点で市長は多選についてどう思うか、その考え方だけ教えていただけないでしょうか。

○ 市長

これは、前回の4年前も申し上げていますが、1つは、もちろん一人の政治家があまり長くやることについては、私自身もあまりいいことではないと思っていますが、選挙で与えられている任期はそれぞれ4年間です。私たちは、その4年間にやるべきことを市民の皆さんの前に提示させていただいて、そしてそれらを実行していくことをお約束しながら今行政運営を行わせていただいているところです。ですので、とにかくその任期を全力でやっていくと。そして、結果的にはその積み上げで、それが終わった後には、私が出る、出ないにかかわらず、選挙という市民の皆さんの声を聞いて、そこで市長が選ばれて、4年間その務めを上げていくことの連続だと思っていますので、その選挙の際に判断をしていただくことになると思っています。

○ 東京新聞

ありがとうございました。

私からは以上なのですが、引き続き代表質問に関して質問のある方はお願いします。

○ 時事通信

時事通信と申します。

市長の今おっしゃっていただいたシンカの10年、シンカというお話をしていただきましたけれども、そのシンカの漢字なのですけども、深めるのほうですか、進めるのほうですか。

○ 市長

これは2月の施政方針でも申し上げたんですが、シンカは私はあえて片仮名にしています。なぜ片仮名かということ、3つの意味を持つということで、1つ目のシンカは、ダーウィンの進化論の進化、進めるほうの進化、2つ目の意味は深めるほうの深化、そして3つ目は真価を問う、真の価値

と書いた真価です。

ですので、その前にどういったものかによって、そのシンカの漢字としては違ってきます。ただ、3つを総称して片仮名でシンカと。ですので、シンカの10年と申し上げるときには、片仮名でシンカと私自身は表現させていただいていますし、市役所の公的な文書はそのように統一させていただいています。

○ 東京新聞 ほかいかがでしょうか。

なければ、そのほかに質問がある方は質問してください。

### その他：若田光一宇宙飛行士のJAXA退職について

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。

まず、若田光一さんがJAXAを退職されてアメリカの民間企業ということが決定したんですけれども、その受け止めと、あと名誉館長をされていますけれども、これは今後どうなるのでしょうか。

○ 事務局 前回の記者会見でもお答えさせていただいていたかと思いますが、ぜひお引き受けいただきたいと希望をしてお答えさせていただいているところです。

○ 市長 今後ということですか。

○ 埼玉新聞 科学館に聞いたら、あちらの希望もあるので、確認して、続けられるかどうかを検討しますと。

○ 事務局 詳細については、後ほど所管からお返事させていただくようにさせていただきます。

○ 市長 これまではJAXAを通じて、JAXAの職員ということでお話をしていましたので、また違った立場になりますので、その辺は改めて確認させていただくことになります。

アメリカの宇宙関連の会社と伺っています。詳細は存じ上げていませんが、引き続き宇宙への夢を追い求めながら実現していただいている、チャレンジをし続ける若田さんのこの熱い思いに心から敬意を表したいと思っておりますし、まだまだ年齢的にも体力的にも若い方だと思っておりますので、引き続き若田さんの活躍が多くの子どもたちの夢、そして宇宙への期待、希望につながっていくものだと思っています。現役で引き続き取り組

んでいただくということは、私たちにとっては大変うれしいことだと思っています。ぜひ活躍いただきたいと思います。

- 埼玉新聞 日本ではなくてアメリカにというところはどう受け止めますか。
- 市長 もちろん日本でやっていただけると、それが一番よかったのだらうと思いますが、宇宙産業として一番進んでいるのがアメリカということもあったので、どういう判断であったか分かりませんが、総合的な判断で選ばれたのだらうと思います。それについて私たちから特にコメントすべきものではないと考えています。

ただ、引き続き宇宙への思いと、宇宙で広がる様々な可能性に引き続きチャレンジをしていただけるということは、私たちにとっても大変うれしいことだと思っています。

### その他： グリーンヒルうらわの廃止方針について

- 毎日新聞 毎日新聞と申します。  
高齢者施設の見直しの関係で教えていただきたいのですが、グリーンヒルに入っていらっしゃる利用者の方のいろいろと不安とか反発もあるようなのですけれども、改めて市長のご見解をと思ひまして、4月に来たばかりで以前にもお話しされているかと思うんですが、改めてお聞かせ願えればと思います。
- 市長 グリーンヒルうらわについてということによろしいですか。
- 毎日新聞 はい。
- 市長 まず、グリーンヒルうらわについてですが、開設から30年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいますが、大規模な入所施設ですので、入所者の移転を伴う大がかりな工事の実施が大変難しい状況です。また、近年も利用者が少し減少してきているという傾向もあります。

そうした中で、私たちもいろいろな角度から検討を進めてきましたが、指定管理者の意向としては医療人材、介護人材の不足が社会問題化している中で、現在の指定管理者においても人材の確保に大変苦慮していると伺っており、また老朽化施設での今後の事業継続に課題が生じていることから、事業継承が困難であるという意向を伺ったところですが、これらの状況等に加えて、周辺においては民間事業者のサービスが充実していることな

どから総合的に判断し、廃止はやむを得ないと考えています。

現在、利用者の転所に当たっては、それぞれの個々の意向をしっかりと伺いながら、移転先の調整などを行いながら丁寧に進めていきたい、不安をしっかりと解消しながら丁寧に進めていきたいと考えています。

○ 埼玉新聞

埼玉新聞です。

関連ですけれども、入所者の皆さんが見直しを求めて要望書を近く提出されるということですが、その対応というのはどうされるのでしょうか。

○ 市長

グリーンヒルうらわについては開設から30年以上が経過して施設の老朽化が進んでいることや、あるいは医療人材、介護人材の不足というようなことがあります。社会的にもサービスの提供体制の整備が進んでいますので、これらの状況から総合的に判断して、廃止はやむを得ないと考えています。現に施設を利用されている方々からは反対であるとか不安の声も多数いただいているようですが、介護老人保健施設、ケアハウス、それぞれの廃止予定までの期間の中で利用者の意向をしっかりと伺いながら、また不安をしっかりと取り除きながら移転の調整を進めて、丁寧にご理解をいただきながら進めていきたいと考えています。

○ 埼玉新聞

建設から30年ということで、公共施設マネジメントですと最長60年まで利用できるというふうに市は決めていますけれども、それとの整合性はいかがですか。

○ 市長

施設ごとにやはり差があります。そういう意味では、グリーンヒルうらわについては老朽化に伴う課題がかなりあることから、いろいろ検討を進めてきたものです。

○ 埼玉新聞

市の内部で昨年11月に決定したということなのですが、昨年11月にも入所されている方がいらっしゃいますけれども、その辺はどうしてこうになってしまうんですか。

○ 事務局

現在指定管理者であるさいたま市社会福祉事業団とは、施設の継続、あるいは廃止に向けた協議を続けてきましたが、ただ現場の職員一人ひとりにはこういった状況については伝えてなかったもので、そういった中でやむを得ず施設に入る必要があるという方については入所いただいた事情があります。

- 埼玉新聞      きんもくせいは来年3月末、ぎんもくせいが2030年の3月末、これはもう絶対に動かないんでしょうか。
- 事務局      まず、介護老人保健施設、デイサービスにつきましては、基本的にはその都度の契約となりますので、令和7年3月31日の廃止を予定しています。ケアハウスについては、こちらは入所施設、住まいそのものですので、さらに5年間の期間をかけて移転の支援をさせていただきたいと考えています。
- 埼玉新聞      これは、なぜ令和7年になるのでしょうか。指定管理の期間が来年の3月というふうに決まっているからですか。
- 事務局      おっしゃるとおり、令和7年3月31日で現在の指定管理期間が終了します。ケアハウスの終了予定時期を令和12年3月31日とさせていただいているのは、次の指定管理期間の5年間を考慮して、この期間において移転の支援をさせていただきたいと考えているところです。
- 埼玉新聞      契約期間で決めなくてもいいんじゃないかと個人的には思うんですが、いかがですか。
- 市 長      基本的には今言ったスケジュール感で対応していきたいと考えています。
- 埼玉新聞      関連ですけれども、ここ最近、市庁舎、武蔵浦和学園、沼影市民プール、与野中央公園の大型アリーナ、グリーンヒルもそうですけれども、市が方針を決めてから説明会をして、反発を受けるというケースが多々あるんですけれども、これは今後そういう方針、そういうやり方でしかできないということですか。
- 市 長      基本的には、これまでもいろいろな形で市民の皆さんの声を伺ってきていますが、決定をしないと説明できないこともありますし、お話ができないこともありますので、その都度、適宜市民の皆さんからのご意見を伺いながら決定をしていくことにしているつもりです。
- 埼玉新聞      決定したので、皆さん、ご理解くださいという説明なのですよ、今回も。市民の声を聞いているわけじゃなくて、決定したから聞いてねということなので、その辺は変わらないということですか。
- 市 長      今回は、老朽化の問題など、ハード的な課題もありますので、それらを総合的に勘案して、一定の期間の猶予を持ちながら進めていこうと決定させていただいたものです。



- 市 長 先ほどの幹事社質問で誰一人取り残さないとおっしゃっていましたがけれども、取り残されてしまうのではないかと思うのですけれども、いかがですか。
- 市 長 それは取り残しません。きちんと民間の受入れ先に丁寧に調整をして入っていただくことは、しっかりとやりますので、そこは取り残すものではありません。
- 埼玉新聞 入所者の方に聞くと、その説明を受けたけれども、信用できないというのです。いかがですか。
- 市 長 それは、丁寧に説明をしていくしかないのではないのでしょうか。
- 埼玉新聞 何で怒るのですか。何で声を荒げるのですか。
- 市 長 荒げていないですよ。
- 埼玉新聞 本当に人生かかっているんですよ。
- 市 長 声を荒げてなんかいないですよ。ただ、強めにというか、強調したかったから、ちょっと強めかもしれませんけれども、声を荒げるという表現とはちょっと違うのではないのでしょうか。
- 埼玉新聞 では、表現が違いましたけれども、本当に涙を流して訴えている人が多いので……
- 市 長 ですから、その方々に個別にご事情も聞きながら、丁寧に民間の事業者に入所ができるように、まだ5年、6年先でありますので、その間にきちり対応ができるように、私たちとしても万全の体制でそれを実施していきますと、申し上げます。
- NHK NHKです。  
ちょっとまたグリーンヒルうらわの話に少し戻ってしまうんですが、入所者の方の何人かの方は、今回の移転での市の支援を一切ないというふう  
に説明を受けているという、要は食い違った意見を言われる方もいらっしゃるのですが、もし例えば市のほうで、今入所者が大体たしか73人ぐら  
いいらっしゃるはずなんですけれども、何人の方がその説明会に参加されて、しっかりその説明を受けたのかというのをもし把握していれば、数として教えていただけるとありがたいなという次第です。
- 市 長 ちょっと今手元にないようですので、申し訳ありません。後ほどお知らせします。

## その他：自民党の政治資金問題について

- 埼玉新聞 自民党の政治資金の関係で、処分が4月4日に出ましたけれども、その受け止めをお願いいたします。
- 市長 自民党内での処分ということですので、それについてはちょっと言いにくいところではありますが、やはり今回の案件は著しい政治不信を招いた結果になっていると思っていますので、やはりそれぞれの政党、あるいは政治家本人がしっかりと説明責任を果たしていただいて、そして信頼回復にしっかりと努めていただきたいと思います。そして、身の処し方の仕方についてもそれぞれしっかりと対応していただきたいと思います。
- 埼玉新聞 岸田首相、自民党総裁と二階さんが処分されませんでしたけれども、これはどう思われますか。
- 市長 一般的な国民目線で申し上げますと、やはり何らの処分が全くないことについては、いささか国民の理解が得にくいのではないかと思います。
- 東京新聞 では、どうもありがとうございました。  
以上をもちまして本日の記者からの質問を終了させていただきます。
- 進行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。  
なお、次回の開催ですが、4月25日木曜日午後1時30分からを予定しております。本日はありがとうございました。

午後 2時25分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。